「一万人のエコチェック事業」

# 「見える化」と「ライフスタイル」の提案拡がる

## 3369枚のカードが集まる

「一万人のエコチェック事業」は、県全体で二酸化炭素の排出抑制、環境問題に取り組む生活習慣の確立を目的に、県内約1万人の公衆衛生推進委員が家庭で省エネに取り組み、電気などの使用量を前年同月分と比較して、その効果を数値として把握＝『見える化』する事業で、実践率50％（推進委員の半数が取り組みに参加）を目標に実施しています。最終的には県民運動として展開し、今年度で6年目を迎えます。

今年の実践率は36.3％（速報値）で、県大会会場となった坂町サンスターホールには3369枚のカードが集まりました。これまでの取り組み成果をまとめると、消費エネルギーの削減運動が展開され、家庭での省エネが実践されていることがわかります（**図1**）。

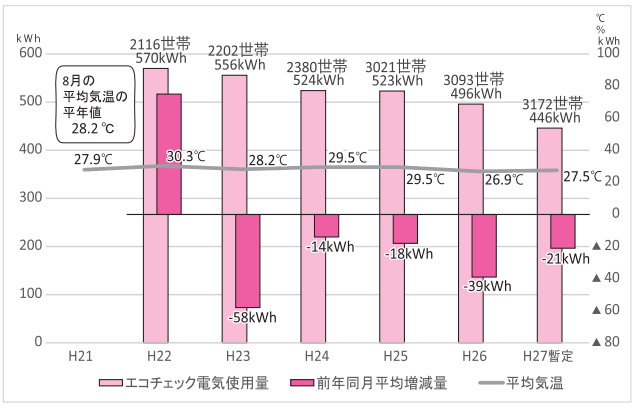
今後、当協会は、市町や世帯人数別、給湯エネルギー別などの視点でデータを分析し、3月中旬を目処に各公衛協へ集計データを報告する予定です。

また、12月10日の県大会で、エコチェックカードを使ったお楽しみ抽選会を開催しました。基本調査で報告された市町公衛協の推進委員数を母数に、「実践率」「実践率の上昇率」を算出し、それぞれ上位3市町公衛協に、「公衛協PRグッズ」の目録を贈呈しました。実践率上位は、1位坂町公衛協（100％）、2位竹原市公衛協（99％）、3位大崎上島町公衛協（93％）でした。実践率の上昇率上位は、1位竹原市公衛協（30％）、熊野町公衛協（30％）、3位神石高原町公衛協（19％）、4位廿日市市公衛協（17％）でした。「実践率の上昇率」の表彰は今年度から行うもので、実践率が低い公衛協が事業を活性化させるきっかけづくりとなるよう期待しています。今年度の実践率の上昇率1位の竹原市公衛協は、主評価軸の実践率で2位であったため、「実践率の上昇率」での表彰は見合わせました。

この事業は、県内の省エネ運動展開の基礎となります。地球温暖化問題は、私たちが健康で住みよいまちづくりを考えていく上で、避けては通れない課題です。引き続き、皆さまのご協力をお願いします。

（地域活動支援センター）

● 1万人のエコチェック事業年度別取り組み実績(図1) ●




● 1万人のエコチェック事業実践率一覧 ●　（12月10日時点）

| No. | 公衛協名 | 全委員数 | 実践者数 | 実践率 | No. | 公衛協名 | 全委員数 | 実践者数 | 実践率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 府中町 | 92人 | 35人 | 38.0% | 14 | 安芸太田町 | 48人 | 20人 | 41.7% |
| 2 | 海田町 | 88人 | 26人 | 29.5% | 15 | 北広島町 | 403人 | 158人 | 39.2% |
| 3 | 熊野町 | 30人 | 18人 | 60.0% | 16 | 安芸高田市 | 306人 | 11人 | 3.6% |
| 4 | 坂町 | 24人 | 24人 | 100.0% | 17 | 東広島市 | 976人 | 284人 | 29.1% |
| 5 | 江田島市 | 167人 | 25人 | 15.0% | 18 | 三原市 | 380人 | 28人 | 7.4% |
| 6 | 竹原市 | 90人 | 89人 | 98.9% | 19 | 世羅町 | 485人 | 54人 | 11.1% |
| 7 | 大崎上島町 | 54人 | 50人 | 92.6% | 20 | 尾道市 | 322人 | 118人 | 36.6% |
| 8 | 大竹市 | 71人 | 33人 | 46.5% | 21 | 福山市 | 1,175人 | 612人 | 52.1% |
| 9 | 廿日市市 | 299人 | 187人 | 62.5% | 22 | 府中市 | 690人 | 457人 | 66.2% |
| 10 | 廿日市市大野 | 671人 | 142人 | 21.2% | 23 | 神石高原町 | 31人 | 24人 | 77.4% |
| 11 | 廿日市市佐伯 | 21人 | 6人 | 28.6% | 24 | 三次市 | 450人 | 141人 | 31.3% |
| 12 | 廿日市市吉和 | 23人 | 0人 | 0.0% | 25 | 庄原市 | 360人 | 183人 | 50.8% |
| 13 | 廿日市市宮島 | 43人 | 17人 | 39.5% | 26 | 呉市 | 1,975人 | 627人 | 31.7% |

【全推進委員数】9,274人　【電気】1世帯あたりの電気使用量 約446kWh
【実践者数】3,369人　【実践率】36.3%　前年比平均増減量 ⇒ 約21kWh削減

## 表彰者一覧

県大会で表彰された団体及び個人は次のとおり。（敬称略）

記念品を受け取る受賞者

【広島県知事表彰】
○公衆衛生地区組織活動功労【団体】：三成地区公衆衛生推進協議会（尾道市）
○公衆衛生地区組織活動功労【個人】：馬場幸夫、世古富子、龍本壽美子、徳田祥子、中尾妙子、新川　護（以上広島市）、樽谷一徳、市川　勇（以上福山市）、角本健治（竹原市）
○母子保健活動功労【個人】：砂堀公二（呉市）、永田　忠（広島市）
○歯科保健活動功労【個人】：花本　裕、横畑裕之（以上広島市）

【広島県医師会長表彰】
○保健衛生活動優良地区：酒屋地区公衆衛生推進協議会（三次市）

【広島県環境保健協会表彰】
○地区衛生組織活動功労者：屋鋪康子、小林常光、武谷さゆり、浜田美子（以上府中町）、山口直美（海田町）、濵﨑瑞恵（熊野町）、車地勝己（坂町）、山下敏治、坂本晏博（以上江田島市）、竹安幸代（竹原市）、山田政美（大竹市）、坂田賴利（廿日市市）、森本みさえ（廿日市市佐伯）、北土井好夫、大村武示、谷　儕（以上東広島市）、内海智子（世羅町）、藤間三郎、木曽義則、藤本正勝（以上尾道市）、村上礼子、佐藤郁宏、岡信正、日南川文男、松井敬江（以上福山市）中村洋之助、上森幹雄（以上三次市）、表　俊晴、﨑谷悦教（以上庄原市）、中谷一彦、伊藤圭一、土本敏明（以上呉市）
○地区衛生組織活動優良団体：東広島市公衆衛生推進協議会黒瀬支部中黒瀬学区（東広島市）、世羅町中央地区公衆衛生推進協議会（世羅町）、新浜西町内会、重井町衛生組合、今津野地区公衆衛生推進協議会（以上尾道市）、警固屋第16区自治会、南辰川町自治会、郷町自治会、宮原11丁目自治会（以上呉市）
○地区衛生組織活動育成功労者：讃岐湜江（府中町）、浅井康雄（大竹市）、川本康子（廿日市市）、佐々木勉吉、幸下靜義（以上東広島市）、河村安之（福山市）、島本博基（呉市）

第56回広島県公衆衛生大会講演要旨

# 個人の活動から地域へ!

## ごみ調査から分かった暮らしの課題

京都大学環境科学センター
助教　浅利　美鈴 先生

京都大学の学生時代に、学内のごみ分別の問題、資源・エネルギーの大量消費に危機感を覚え、京大ゴミ部を立ち上げた。机上の研究だけでなく、人の流れに飛び込み、一人でも多くの人に環境意識を高めてもらうために、「びっくり！エコ100選」や「市民協働発電」「びっくり！エコ新聞」などを手がけた。

京大では、ごみ減量化と社会の変化を調べるため、35年以上継続して毎年ごみの組成調査を実施しており、平成27年12月には36回目の調査を行った。調査は、家庭から出るごみを、地区ごとに100～150世帯分集め、学生や京都市職員など20～30人が手作業で行っている。5年に1度行う生ごみ調査では、ごはんつぶや茶葉、コーヒーかすなど約300種類に分類、計量を行う。

家庭ごみ（燃やせるごみ）の重量内訳は、3分の1が食料品（生ごみ）であり、使い捨て商品が2割を占める。レジ袋は有料化を契機に減少横ばい傾向、使い捨てカップ・トレイは増加傾向、宣伝用の紙は減少傾向にある。「紙おむつ」は高齢化の影響を受け、子ども用、大人用が半々、さらに近年はペット用のトイレマット・シートが増えている。生ごみは調理くず、食べ残しが半々で、食べ残しの大半は「手付かず食品」と呼ばれる開封もせず、全く利用されていない食品である。こうした食品ロスは年間11兆円近くにのぼり、日本の農業・水産業の総生産額に匹敵する。消費期限ではなく賞味期限での廃棄、「おすそ分け」など無駄にしない文化や意識の薄れ、近所づきあいの減少も食品ロスが増えた一因である。

講演風景（上）、京都大学で行っているごみの組成調査（下）

家庭では、食品保存場所の数を減らす、空腹時は買い物に行かない、容器包装、レジ袋を避けるなどの工夫をすること、「物を持たない、足るを知る」など生活様式を見直すこと、資源・エネルギー消費の「元栓」を締めごみを発生させないこと、リサイクルに頼らない2R（リデュース、リユース）を心がけることなどが重要となる。個人の努力だけでは限界があり、個人の活動から、地域、社会を巻き込み、楽しみながら活動するのが理想で、いまこそ市民力が試されている。（地域活動支援センター）